



QFN 通信

Qshu Forest Network News
NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 佐藤 宣子(福岡県 福岡市)

収穫の秋を迎え、日に日に秋が深まってまいりました。新型コロナウイルスでの自粛生活も、2年を迎えようとしています。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。現在(10月6日)のところ、ワクチン接種の効果もあり、第5波が収まり、少しずつ自粛要請が緩和してきています。しかし、冬にかけて第6波も予想されます。どうぞくれぐれもご自愛ください。

さて、この間の森林・林業をめぐる変化としては、ウッドショックによる木材価格の上昇で建築費の上昇や工期遅れなどが社会問題として大きく取り上げられたことです。20年以上にわたって再造林できないような価格低迷が続いてきた山側にとって価格の持ち直しは喜ばしいことではあります。しかし、他国の木材需給や投資マネーによって、地域の環境と深く結びついている木材価格が大きく変動することは持続的な森林経営のリスクにもなります。堅実な地域需要と結びついた木材利用の領域を広げることの重要性を強く感じたところです。

本QFN通信では、5月にオンラインで実施した琉球王朝時代からの沖縄の林野制度と集落景観、戦後の沖縄の住宅の変化と近年のプレカットについての勉強会の報告を掲載しています。毎年、九州各地を訪問し、九州の森林や林業について学ぶプレミアム研修会を実施してきましたが、2022年5月に延期した沖縄研修の予習として催しました。会員以外からの参加もあり、大変勉強になったとの声が寄せられています。参加して下さった皆さま、有難うございました。来年、5月に沖縄での研修会が開催できる状況になることを切に願っています。

また、本通信では、第26回となる九州森林フォーラムの案内を掲載しています。九州において地元で根ざした小さな林業の必要性や可能性を大いに語るフォーラムになるように準備しております。木材価格の上昇の中で、「活況」といわれる状況ですが、どのような森林を次世代に繋いでいくかについて議論を深めたいと思います。今のところ会場参加者を絞り、同時にYoutubeで配信し、質疑を行う予定です。ご参加をよろしくお願いたします。

with コロナ時代において、皆様のご健勝を祈念いたします。引き続きよろしくお願申し上げます。

2021年10月6日 理事長 佐藤宣子

第29号 2021.10.7発行

発行日 2021/10/7

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部:熊本県小国町

<編集責任>

宮崎県諸塚オフィス



【目次】

第9回プレミアム研修会の報告 P.2~P8

第26回森林フォーラムについて P9~P10



第9回 プレミアム研修会 in オンライン(Zoom使用)

～沖縄の森林の歴史と今～

九州森林ネットワークでは、過去8回に渡ってプレミアム研修会を九州各地で行ってきました。

この研修会を通して地域、業種を超えて会員各位の交流を図り、それぞれが抱える問題・課題など様々な意見交換を行ってきましたが、昨年は沖縄での開催を予定しましたが、新型コロナの影響により、収束するまで延期としました。

今回の研修会も現地での開催は感染防止のために断念し、オンラインでの講演と懇親会を開催しました。

コロナが収束し安心して沖縄での研修が開催されるまでの事前学習として、講師に琉球大学名誉教授 仲間勇栄先生、東京大学アジア生物資源研究センター特任研究員 知念良之先生による、オンライン(Zoom使用)での研修会を開催致しました。

日時 令和3年5月15日(土) 午後3時～ ・オンライン研修会

講師① 琉球大学名誉教授 仲間勇栄先生

テーマ「琉球王朝時代の森づくりと集落景観」



・仲間勇栄先生の話しのポイント

《琉球王朝時代の森づくりの思想と制度》

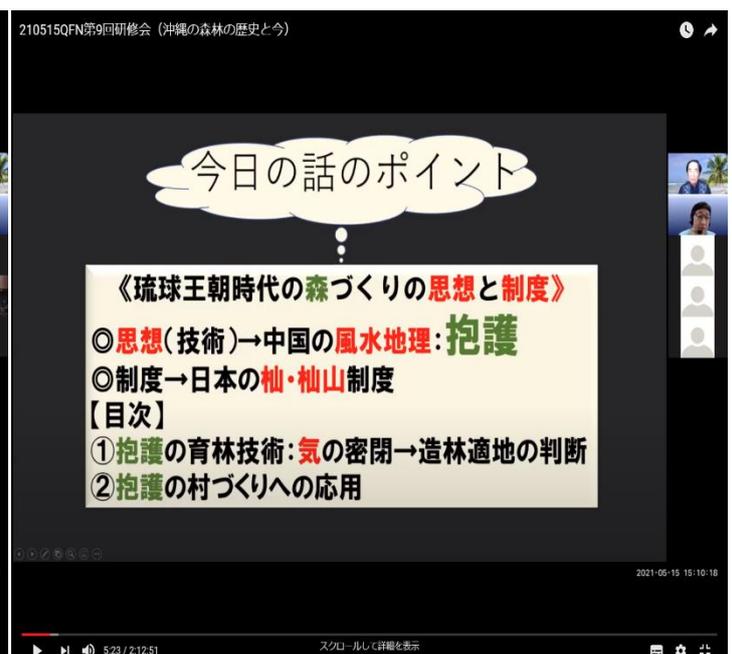
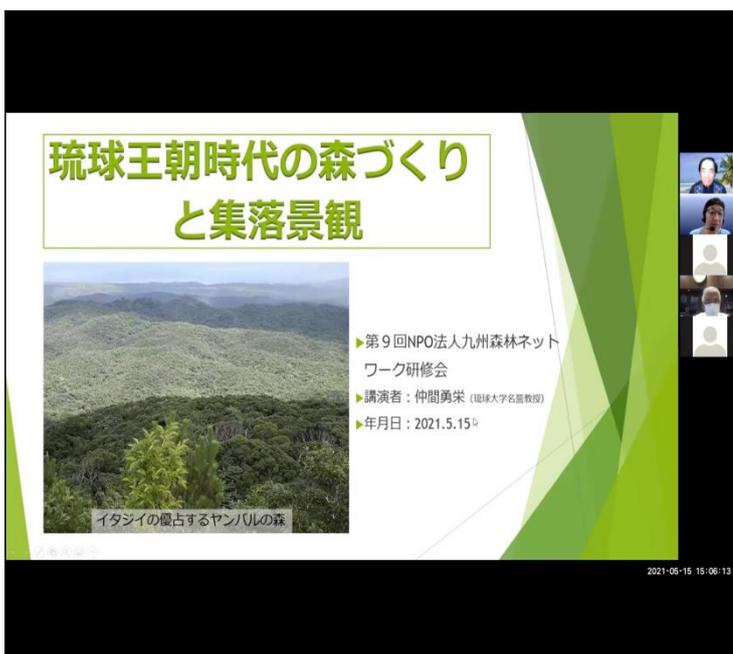
◎思想(技術)→中国の風水地理:抱護

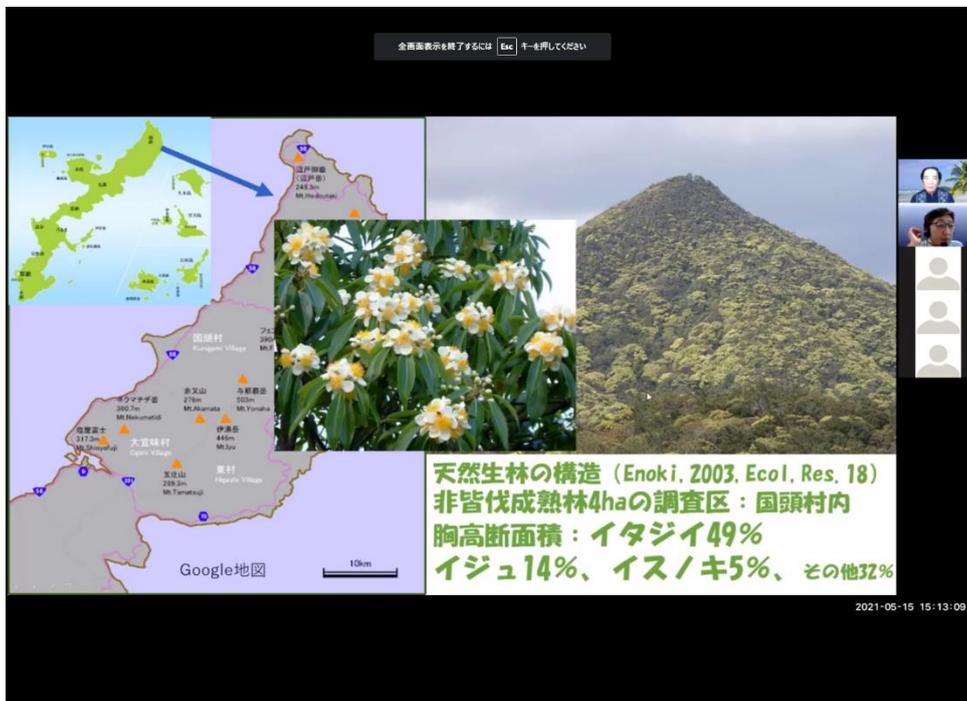
◎制度→日本の杣・杣山制度

①抱護の育林技術:気の密閉→造林適地の判断

②抱護の村づくりへの応用

以上のことについて講演頂きました。





天然生林の構造

(Enoki,2003,Ecol,Res.18)

非皆伐成熟林4haの調査区: 国頭村内

胸高断面積: イタジイ 49%

イジュ 14%、イスノキ 5%、その他 32%

* 伊部岳

蔡温の山林観

《蔡温: 1682 ~ 1761 年》

- ◎幼年期は劣等生
 - ◎中国留学で実学を学ぶ
 - ◎フィールド調査の実践者
 - ◎風水師◎風水地理を琉球に応用
- 抱護の土地利用を確立
- 森林山形説の提唱者 蔡温の山林政策の基本



☆木材の自給自足体制の確立

◎山林制度の改革:

木材生産の安定供給 木材消費の合理化

1737~51年

◎江戸時代の農学者・宮崎安貞:

『農業全書』1697

「おおよそ木を植える所は、深山幽谷の土地で、厚く深く肥

えた所が良い。高い岡(山の背)はこれに次ぐ。」

⇒森林地味説◎蔡温の考え方

⇒「山林真秘」(1768年)・「杉山法式帳」(1737年)

「山林は土の性質を選ばず、山形

が適当かどうかによって、樹木の生長は決まる。

山形が不適だと、土が肥えていても、樹木はよく生長しない。

山形が適当だと、土が痩せていても、樹木はうまく成長する。」 森林山形説

* 抱護とは

抱護の「初山方式帳」1737年「山気が洩れないように諸山が相互に囲んでいるのを抱護という」地形
薄抱護 廻抱護(外側) 内にも抱護(内抱護)

* 抱護の概念

抱護とは、風水地理を応用した気を密閉する手法

・琉球大学名誉教授 仲間勇栄先生 講演後の質問

質問① 今回の研修会の参加者は建築関係の方が多くいる、そこで沖縄の家づくりで木材とか風水の活かし方で歴史的に特徴があったら教えてください？

回答① 現在調査を行っている古民家集落、沖縄の中部にあるナカグスク村のオオシロ、ナカムラ家、昔の大地主の家がある景観と屋敷の配置、今調べているが、周辺をフクギに囲まれており、北を背に南に開けた家の配置になっている、入り口は琉球石灰岩を積んでいる現在調査中であるので、また次回機会がありましたらお伝えします。

質問② 近年、伐採が増えてきているが、伐採面積としてはどの位が適当だと考えますか？

回答② 伐採する立木樹高の5倍程度が適当ではないかと思います。

質問③ 蔡温の山林育林が沖縄で再評価されたのはどのような事で、いつ頃の事だったのでしょうか？

回答③ 戦後からだと思います。、戦争の影響で焼け野原になった沖縄の島を緑に戻すために、米軍によって緑化された。その当時蔡温のこと、沖縄のことを良く調べ、そして蔡温の林政八書を英文に訳し、蔡温の考えを指針に進めていった。

講師②東京大学アジア生物資源環境研究センター

木材利用システム学寄付研究部門 特任研究員 知念良之先生

テーマ「戦後における沖縄の木材需要と近年のプレカットの現状」

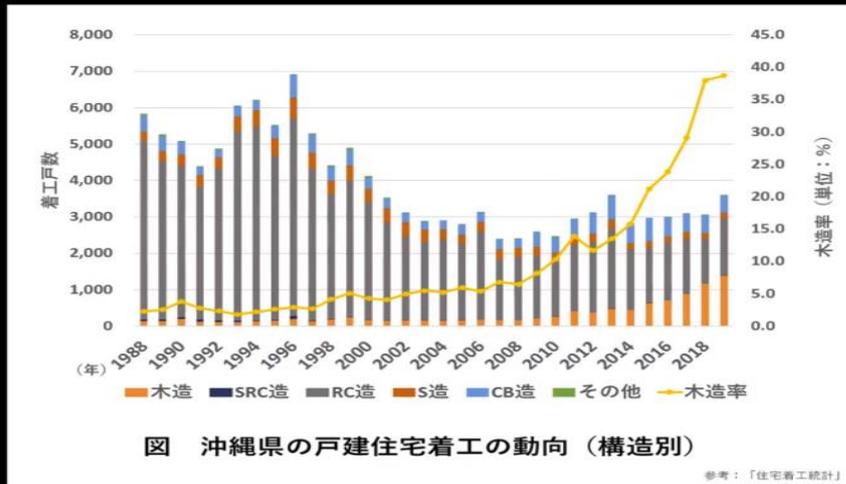
今日の目次

- ・近年の木造住宅着工の動向
- ・琉球建築(在来工法)の特徴の整理
- ・戦後復興期の住宅供給
- ・戦後の非木造供給基盤の形成
- ・1990 2010 年代前半の木造供給体制
- ・2010 年代中盤以降の木造供給体制
- ・まとめ

共同住宅の比率増加で「持家率」は全国最低、2010年以
インバウンド外国人観光客により沖縄県経済が上向きに
工戸数が増えている。



降沖縄県の経済が
好調であり住宅着



2021-05-15 16:25:59

210515QFN第9回研修会（沖縄の森林の歴史と今）



2021-05-15 16:31:28

・東京大学 知念先生講演後の質問

質問① 2011年以降型枠工賃など労務単価が全国的に高くなってきているが、東日本震災の影響なのか。どのような影響が考えられますか？

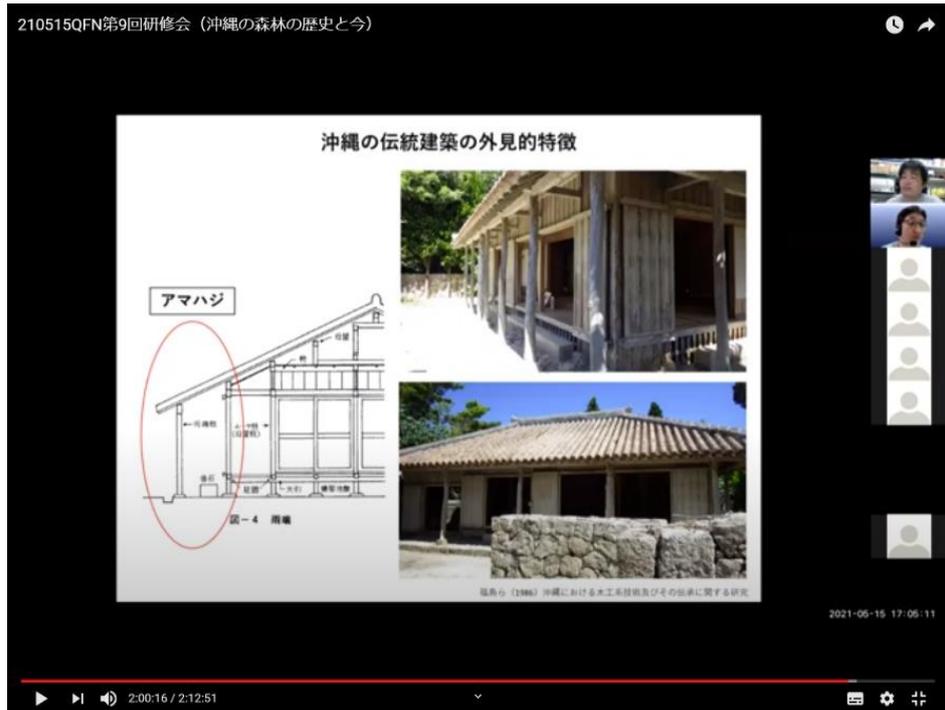
もう一点、現代の沖縄の社会問題にどう対応していくかが鍵であると知念先生は言われていますが、沖縄ではどんな問題が考えられますか？

回答① 2011年以降労務単価が全国的に上がってきました、沖縄の場合型枠工の人口が全国平均の3倍、100万人当たり300人が全国平均、沖縄は1000人を超えている、それでも人手が足りない状況である。職人をスポット的に連れてくる時に今までは観光客が来ない冬に集中的に工事をしていましたが、現在はインバウンド需要がそのタイ

ミングで来るようになり宿が空かない、外から職人を連れてくるより、観光客に貸した方が有利、職人の確保が難しくなった。

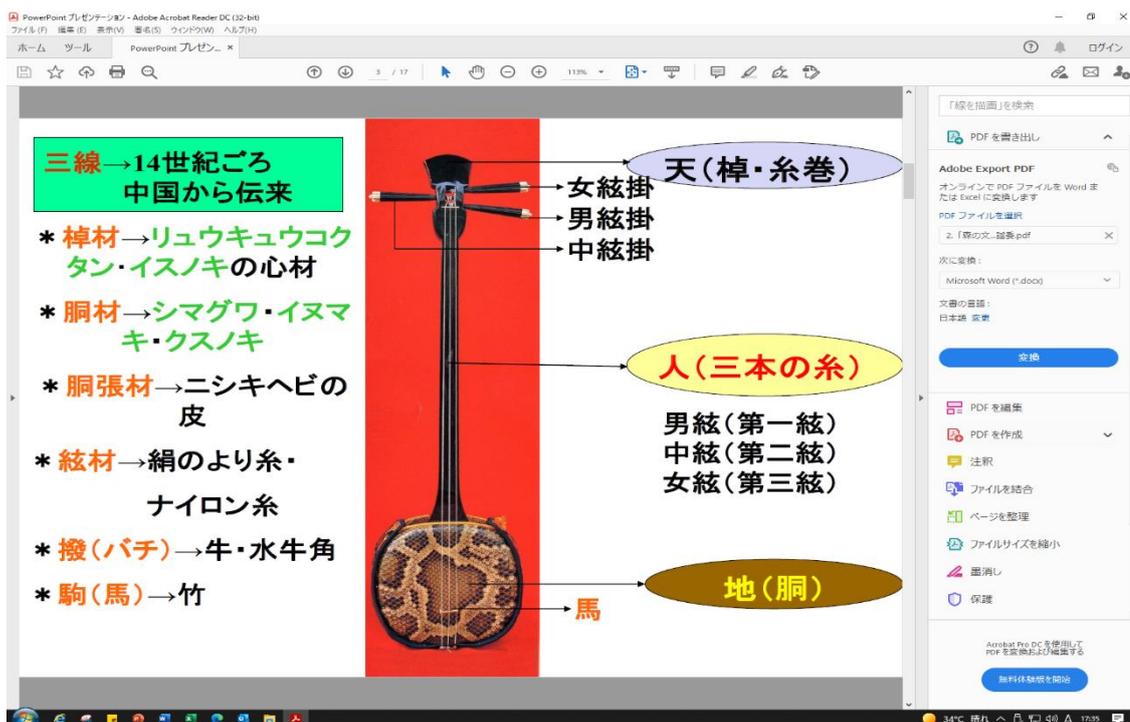
沖縄の社会問題 2040 年まで人口が増えると予想されている、その中でも 14 歳以下の子供の割合が全国平均より高い出生率状況、子育て世代向けに一戸建て住宅を普及させたいと考えている。

質問② アマハジの写真を見て思ったのですが、台風で吹き上げたとき吹っ飛んでしまうのではないかと思ったんです、「屋敷林で守ることでカバーが出来るのかな」とも思いましたが、これから住宅を増やすとなると屋敷林で住宅を守る事が難しくなるのではないかと、構造体はしっかりしているとしても屋根が梁から外れ吹っ飛んでしまう恐れがあるのではと心配になりました。沖縄はひさしが当然重要でも台風には不利だと思いますが、どのような住宅傾向になっていますか？



回答② 写真でご紹介したアマハジは伝統的な建築になります。現在の住宅建築では本土の住宅と同じようなキューブタイプの家が主流になってきておりますが、沖縄ではひさしは重要、ひさしが無い家は珍しい、台風に対する住宅問題の課題は現在も残っている。

オンライン懇親会



講演終了後、引続いてオンラインでの懇親会を行ないました。参加者それぞれ、ビール、ノンアルコール、お茶、おつまみなどを持ち寄りながら、参加者皆さんからの自己紹介から始まり、盛り上がるの途中に仲間先生から沖縄ならではの三線の説明、三線演奏もご披露頂き、沖縄に行っ

* 研修会参加記念写真



研修会終了後、アンケートにご協力頂きました。

* 参加者の感想

大変勉強になりました。誠に有難うございました。

今回の仲間先生、知念先生の御講演をお聞きしただけでも、九州森林ネットワークの会員になっていて良かったと感謝しております。有難うございました。

今後取り上げて欲しいテーマとして、早生木の現状を御教示頂きたい。

(販売代理店 60歳以上)

木材価格高騰の最近ではあるのに、この話題には何もなかった所以对策を含め採り上げてほしい。

(建築関連 60歳以上)

大変お世話になりました。勉強になりました。

来年はコロナも収束し現地開催での研修会に是非参加したいと思いました。

有難うございました。

(素材生産業 50歳代)

第 26 回 九州森林フォーラム in 大分県日田市

～九州における小規模林業の役割と課題～

趣 意 書

新型コロナウイルスの感染拡大が世界を覆って 2 回目の夏が過ぎようとしています。自由な移動もままならない中ではありますが、森林・林業をめぐる大きな変化が生じています。1 つは、ワクチン摂取が進み経済が回復してきた国、特に米国の木材需要が高まり、コロナ後の郊外への住宅建築ラッシュを見越して金融マネーの投資対象となり住宅、木材価格の上昇したことです。日本にもすぐに影響し、「ウッドショック」と報じられたように、一部では住宅着工がストップし、国内の丸太、製品価格も上昇しています。長期にわたって再造林費用も確保できない低価格で推移してきた木材価格の上昇は、山側にとって歓迎すべき状況だと言えます。しかし、グローバル経済の大きな流れに翻弄されずに、しっかりとした地域の実需と結びつく林業や木材産業を確立することの重要性も明らかになったのではないのでしょうか。

もう一つの変化は、国内で発生している度重なる豪雨による土砂災害の激甚化です。九州においても昨年は熊本県南部や小国町、大分県日田地域で土砂崩壊や河川が氾濫し、甚大な被害が発生しました。国内だけではなくドイツの洪水、イタリアの森林火災など、国際的にもこれまで経験したことのないような災害が報告されています。いずれも気候変動の影響が指摘されているところです。

以上のような経済や環境が大きく変化する中で、社会基盤である森林を保全しながら、木材の循環利用を進めることが求められています。第 26 回目を迎える今回の九州森林フォーラムでは、小規模な担い手に焦点をあて、その役割、可能性、課題を議論したいと思います。

九州はかつて自家山林を自家労働力で施業を実施する自伐林家が多い地域として有名でしたが、次世代への継承が難しく、また主伐中心の時代となり、事業体による施業が中心となっています。素材生産の機械化と規模拡大に伴って、大面積な皆伐施業地が増加しています。また、木材加工業の大規模化が進行し、大量・安定的な原料確保が求められています。一方で、近年、九州地区自伐型林業連絡会が発足し、自家山林を再活用したいとする森林所有者や自家山林を保有しない移住者が他者の山林を借りる、または委託を受けて林業を行う、「自伐型林業」の動きも広がっています。自伐型林業の小規模施業方法を取り入れようと、大規模山林所有者と自伐型林業者が協働した研修会も始まっています。

九州地域で自伐林家や自伐型林業といった小規模林業はどのような役割と課題があるのでしょうか。定住化、環境保全、減災、地域振興など多角的な視点から実践者を交えて議論したいと思います。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

NPO 法人九州森林ネットワーク

理事長 佐藤 宣子

九州地区自伐型林業連絡会

会長 梅木長二郎

■基調講演者

- ・興梠克久氏（筑波大学生命環境系農学域准教授）
「小規模林業の歴史と新たな展開」
- ・三木真冴氏（東北・広域森林マネジメント機構事務局長・自伐型林業実践者）
「東北での自伐型林業の展開と特徴」

■パネルディスカッション

上記 2 名の基調講演者に加え、3 例の事例報告後にディスカッション

- ・福田祐一氏（九州地区自伐型林業連絡会事務局長、下毛の里自伐型林業研究会事務局長）
 - ・合原万貴氏（日田林家、マルマタ林業（株）総務企画部長、NPO 法人木林乃森を守るネットワーク理事長他）
 - ・吉井和久氏（株式会社まるごと農場）
- コーディネーター
- ・佐藤宣子氏（NPO 法人九州森林ネットワーク理事長、九州大学大学院農学研究院教授）

■日 程

2021 年 12 月 10 日（金）13 時～17 時 九州森林フォーラム
同 11 日（土）9 時～15 時 日田市内自伐型林業研修実地場所等の見学会

■開催場所

日田市民文化会館「パトリア日田」ギャラリー

（大分県日田市三本松 1 丁目 8 番 11 号） TEL：0973-25-5000 FAX：0973-25-5001

*参加上限 50 名で YouTube 同時配信

*新型コロナウイルスの感染拡大の状況によってはオンラインで実施

■問い合わせ先

NPO 法人九州森林ネットワーク事務局（小国町森林組合内 川谷）

電話番号 0967-46-2411

e-mail kawatani@ogunisugi.com

詳細なスケジュール、申し込み方法については、同封のチラシをご覧ください。